

第11回桜井市地域ブランド認定推進委員会 会議録（要約）

開催日時	平成29年2月23日（水） 午後3時
場 所	桜井市役所 本庁4階 第1委員会室
出席者	<p>（委員）</p> <p>堀井良殷氏（（財）大阪21世紀協会理事長）、ト部能尚氏（桜井市商工会）、林勤氏（桜井市観光協会）、多田成弘氏（奈良県農業協同組合）</p> <p>土井正彦氏（奈良県中部農林振興事務所）、テリー植田氏、岩城啓子氏（畿央大学健康科学部健康栄養学科）</p> <p>（欠席）</p> <p>麻生憲一氏（立教大学観光学部）、谷奥忠嗣氏（桜井木材協同組合）</p> <p>（事務局）</p> <p>清水孝夫（まちづくり部長）青木浩之（観光まちづくり課長）</p> <p>岡本喜一（観光まちづくり課主幹）</p> <p>後藤聖子（観光まちづくり課まちづくり戦略係主査）</p>
取材及び傍聴	なし
司会	ただ今より第11回ブランド認定推進委員会を開催する。ご多忙の中ご出席を賜り感謝する。議事進行を堀井委員長にお願いしたい。
堀井委員長	では次第1「プロモーションイベント報告について」事務局より説明願う。
事務局	資料に沿い、平成28年7月7日（木）に東京カルチャーカルチャーで開催した「七夕そうめん祭り in お台場2016」について説明。続いて、平成29年2月3日（金）に東急プラザ銀座で開催した「大和さくらいブランドプロモーションイベント」について説明。
堀井委員長	今回、ご協力いただいたテリー委員にお話をお伺いしたい。
テリー委員	<p>七夕そうめん祭りには、7月7日が「素麺の日」であることもあり、放送作家やディレクターなどテレビ関係者も多数訪れ、様々なお話をお聞きすることができた。ご出演いただいたTBSお天気キャスターの久保井さんによると、キャスターには素麺好きが多く、「三輪素麺」の存在を認識している方も多いため、お天気キャスターと三輪素麺のコラボイベントなどを開催しても面白いかもしれない。</p> <p>また、銀座でのプロモーションイベントでは、参加者のうち30名以上の方が桜井市を訪れたことがあり、また、移住してみたいであるとか、奈良県に興味のある方に多くご参加いただいた。そんな方々が銀座に集まり、お会いできたことを嬉しく思っている。それだけ注目されているということなので、桜井市としてしっかりプロモーションしていくべきであると考えている。</p>
林委員	テリー委員にはご尽力いただき、感謝している。
ト部委員	銀座のイベントで参加料は必要だったのかお聞きしたい。
事務局	参加料は無料で開催した。
堀井委員長	平成29年も開催予定か。

事務局	平成29年の開催については、未定である
堀井委員長	認定品を増やすだけでなく、普及しないと意味がない。 次に、次第2「来年度事業について」事務局より説明願う。
事務局	資料「平成29年度桜井市地域ブランド認定推進委員会 年間スケジュール(案)」に沿い、次年度は外部事業者に委託してプロモーションを実施するということを重点的に説明。
堀井委員長	以下の4つの件について、委員の皆様にご議論いただきたい。 ① 平成29年度の委員会開催日程について ② ブランド認定品のプロモーション事業の委託内容について ③ 今後の審査の在り方(過去に不適合なった品の再審査)について ④ ブランド認定品のふるさと納税返礼品への登録について 3点目の再審査については、これまでは全委員の認定を原則としていたが、惜しくも不適合となった品については、原因が解消されていれば改めて再審査を行い、認定してもいいのではないかと考えている。 4点目のふるさと納税については、返礼品としてブランド認定品をそれぞれ単独で登録してもよいが、「桜井ブランドパック(案)」といったようにセットにしてお渡しするのもいいのではないかと考えている。その際、現在の認定品はバラエティに乏しく、工芸品が足りないと感じる。今後はこのことも踏まえて認定品を募りたいと考えている。 これらのことについて、委員の皆様のご意見を伺いたいしたい。まずは、委員会の開催日時から決めたいと思う。
全委員及び事務局で調整	
事務局	第12回委員会を6月21日(水)15時から、第13回は10月25日(水)9時から開催するものとする。なお、第13回については認定品の審査会になるため、委員会が終日に及ぶ可能性が高いことをご理解いただきたい。第14回は平成30年の2月頃開催予定だが、日時については次回以降の委員会で決定するものとする。
岩城委員	平成29年度の委員についてご報告したいことがある。私が4月から大阪の女子大学に異動となった。私自身はこれまで30年近く桜井市にお世話になっているので、続けて参加させていただきたいと考えているが、本件については畿央大学として参加させていただく方が望ましい。後任には、畿央大学で調理学や給食の研究をしている上地加容子(うえちかよこ)にお願いしており、本人からも参加させていただきたいとの旨を聞いている。
堀井委員長	委員の任命は市長になるのではないかと。
事務局	その通りであるので、後ほど市長と相談させていただく。
堀井委員長	次に、2点目にあげた、プロモーション事業の委託内容についてご議論いただきたい。現在、ブランド認定品を購入できる場所が少なく、パンフレットに掲載された販売場所には手軽に行くことのできない場所もある。デパートや駅ナカ等への販路拡大が必要である。また、最近ではネット通販もあるので、

	ブランド認定品のポータルサイトを開設するという方法もある。ただし、注文を受けて精算・発送するという業務を個々の事業者で対応するのは難しいので、ブランド認定品を一括で取り扱う問屋のような存在が必要であると考えている。
堀井委員長	また、情報発信については、パイロット事業を実施するだけでなく、さらにブレイクさせようとするなら、実際に体験した方に Facebook や Twitter などの SNS で拡散していただいたり、「るるぶ」や「Walker」の担当者に参加いただくインセンティブ旅行を企画するなどが必要であると考えている。このような仕掛け作りも含めて外部委託してはどうか。専門家であるテリー委員にご意見をお伺いしたい。
テリー委員	販路拡大について、心齋橋や梅田など40店舗ある東急ハンズに特設コーナーを設置するのはどうか。情報発信については、インターネット記事のライターに体験していただき、記事にしてもらうという手がある。東京在住のライターの中にも、奈良県・旅・お寺が好きだという方もいるため、何十万人という方が記事を目にすることを考えると、非常に有効な手段となる。
堀井委員長	これまでの情報発信のやり方は、受け手に対し1対1で情報提供して終わりだったが、現在は受け手側も発信者となり、体験の感想を友人に拡散するという流れができていく。この仕組みをいかに取り入れるかが重要である。ただし、こういった仕組み作りを行政で全て行うのは難しいため、これを取り仕切る人物が必要となる。
林委員	桜井市観光協会のホームページには多くのアクセスがあり、桜井ブランド認定品のことも掲載しているが、どこまで浸透しているかどうかは疑問である。
堀井委員長	桜井市観光協会のホームページには、インターネット通販のポータルサイトはないのか。
林委員	観覧数は集計しているが、そこまでは確認していない
ト部委員	みむろ最中のように、販売場所をあえて限定している場合もある。駅前の「ひみこの里」に置かせてほしいとお願いしているが、置かせてもらえていない。
堀井委員長	ブランドイメージのために、あえて販売場所を限定するという方法も確かにあるため、それはそれで仕方ない。 現在、商工会と相談して、まちづくり会社を立ち上げているのだが、そこで桜井市のお土産特設コーナーを設置する予定である。
ト部委員	現在200種類程度の商品の販売を予定している。
堀井委員長	ここでも、単体の商品だけでなく、いくつかセットになったものを販売するのも良いと思う。
林委員	ふるさと納税について、観光協会と日の丸交通がタイアップし、観光タクシー券を出すということも考えている。日の丸交通との協議が必要だが、日の丸交通の辻社長には観光協会の副会長をしていただいているということもあり、この企画はスムーズ進むと思われる。
ト部委員	日の丸タクシーには一人だけ英語を少し話せる人がいるが、もっと増やしていただく必要がある。

林委員	海外から日本に来られた方の感想を調べていると、たとえ流暢でなくとも、片言でも英語で話していただけると嬉しいという意見をよく耳にする。
ト部委員	日の丸交通に中国語を話せるドライバーはいないのか。
林委員	中国語を話せるドライバーはいない。
堀井委員	現在のブランド認定品のラインナップをみると、工芸品が入っていないため、木材加工品などを次の認定品にいれたいと考えている。第2回の審査会で不適合となったが、木製のボールペンであるとか。そういう意味でも、再審査の必要性を感じている。また、工芸品のひとつとして相撲人形（出雲人形）もふさわしいと思う。製作体験などは実施できないだろうか。
林委員	木製ボールペンについて、先日、観光協会で製作体験を実施したところ、桜井市内の方にも非常に楽しんでいただけた。こういった、地元で頑張っている事業者は是非ブランド認定品に加わっていただきたい。
堀井委員長	プロモーション事業の委託は、事務局で公募されるということによろしいか。
青木課長	委員の皆様にご意見を仕様書としてまとめ、プロポーザル審査を行うことを予定している。
堀井委員長	委員の皆様の中で、委託事業に推薦したい人物がいれば事務局に紹介していただきたい。事業者の選定は事務局で行うということによろしいか。
青木課長	委員の皆様にご許可をいただけたら、事務局で行うことを予定している。
堀井委員長	事業者の公募から選定までの手続きを事務局に一任してよろしいか。
全委員 承諾	
堀井委員長	3点目の審査の在り方について、すでに審査を受け、惜しくも不適合となった品については再審査してもよいか。改めてご議論いただきたい。
林委員	不適合となった事業者からの苦情などは出ていないか。
事務局	苦情というものではないが、認定されなかったことに対し、残念であるというご意見や、なぜ不適合となったのかをお聞きになる事業者が多かった。不適合の理由は書面でお渡ししているの、そちらをご覧いただくと、納得していただけた。
林委員	再審査するというような話は出ていないか。
事務局	出ていない。
林委員	事務局には作業を増やしてしまうことになるが、再度申請していただき、再審査した方がよいと考えている。事業者にはもう一度申請していただけるか案内し、申請するかしないかは事業者が決めることではあるが、熱心な事業者は再申請すると思う。
事務局	木製ボールペンについては、先ほどご提案いただいたような形ですでに2回申請していただき、2回とも不適合となった経緯がある。こういった事業者に対しては、再度申請していただけるのかどうか、検討が必要である。
林委員	そういった事例については、実際に対応している事務局で判断し、再申請の可能性のある事業者だけに声をかける、という方法で良いと思う。

事務局	再申請の方法としては、申請書類一式を再度作成いただくのか、変更点や改善点を書き加えるという方法もある。書類作成が事業者にとって負担となるため、再審査の場合はフォローする必要があると考えている。
堀井委員長	不適合となったことには理由があるため、その部分については当然改善されるべきであるが、そこまで難しいことではないと思う。たとえば「包装が貧弱である」ということが理由であれば、包装を改善する必要はあるが、わざわざ包装のデザインから行う必要はなく、既製品を買うだけでも良い。このように、少し見方を変えれば改善できるような品もあったように思う。また、書類については、改善したということが分かれば良いので、全ての書類を再度揃えて提出いただく必要はないと考える。
事務局	過去2回の審査で惜しくも不適合となった品を、理由と共に事務局でリストアップさせていただくので、6月に開催する第12回委員会では、再審査の必要がある品を委員の皆様を選定していただきたい。選定された事業者には、再申請を行うか事務局で聞き取り調査を行う。再審査を希望する事業者については、既提出の書類に加筆修正する形で改善点を提案していただく。10月の第13回委員会では、委員の皆様には新規申請分の審査に加え、再申請分の再審査を行っていただく。この内容でよろしいか。
全委員 承諾	
堀井委員長	再審査の品数は多くなかったように思う。
事務局	10点前後になると思われる。
堀井委員長	事業者に対しては、不適合となった理由を伝えるだけでなく、どうすれば改善されるのかも事務局でサポートする必要があるように思う。上から目線で審査するだけではブランド認定事業は盛り上がらないので、事業者と共に作り上げていくという姿勢が必要である。
堀井委員長	たくさんのご意見をいただき感謝する。 次に、次第3「その他」について事務局より説明願う。
青木課長	本委員会の皆様は2年の任期を迎えことになるが、次年度も引き続きお願いしたい。岩城委員の後任の件は、後ほど市長とも相談させていただく。
堀井委員長	岩城委員は今回の委員会が最後になるため、お言葉をいただきたい。
岩城委員	販路拡大については、どこでも買えないというのは私も残念と感じており、近鉄デパートなどに用意していただければと思う。ただし、認定品の中には消費期限が短いものもあり、例えばみむろ最中はブランドイメージもあると思うが、売れ残りを心配して販路を拡大しないという理由もあるのではないかと。山の辺の道などで日にちを限定し、目標販売個数を定めて販売することで知名度を高めるという方法もある。 短い期間ではあったが、本委員会の皆様にはお世話になった。
堀井委員長	桜井駅前のコンビニに認定品コーナーを置くことはできないか。奈良市の三条通りで営業していた「ぜいたく豆本舗」が閉店した際、同店の商品を三条通りのコンビニで販売しているという例がある。

林委員	桜井駅南側のコンビニにはみむろ最中を置いており、市内の方がお土産として持参する際に購入していると聞いている。ただし、ここにも消費期限の問題は残っている。
堀井委員長	近鉄などの駅ナカで販売している「赤福」は、統計でどのくらい売れるかを把握しているため、売れ残らずほぼ完売している。 桜井市では各所でまちづくりが進んでいるが、土産物屋が少ない。三輪山本の土産コーナーは充実しているので、観光バスも多く入っている。旅行に来られた方は何かお土産として買って帰りたいという方が多いため、今後のブランド認定品には「買って帰ることができるもの」としての視点も必要である。
ト部委員	桜井駅北側の「ひみこの里」で販売しているみたらしだんごも、日によって売れ行きが違うため、消費期限の短いものは特に販売数を想定するのが難しい。酒類も置いているが、売れ行きは芳しくない。
堀井委員長	「ひみこの里」でお酒を売っているということを知らない方が多いのではないかと。
林委員	山の辺の道を歩きに来られる方は、桜井駅から帰られる際、「ひみこの里」に気付かない場合も多い。現在はのぼりを立てて宣伝しており、それだけでも効果的である。
ト部委員	山の辺の道を歩きに来られる方の多くはコンビニで昼食を買い、お土産を買わない印象がある。
堀井委員長	帰りにお土産を買いたいと思う人は一定数いるので、まちづくりの一環として、来訪された方がお土産を買いやすい桜井駅北側の整備が必要である。 他に何かご意見はないかと。
事務局	本日、委員報酬の平成28年度の源泉徴収票をお配りしているので、お持ち帰りいただくようお願いする。
堀井委員長	これにて本日の委員会を閉会とする。